高蔵寺どんぐりｓ

ふれあいだより

NO 66

2015.6.10

ＮＰＯ法人　高蔵寺ニュータウン再生市民会議発行（☎0568-94-0119）

ニュータウン再生市民会議2015年度総会を開催

実践する会へ組織の充実目指す

高蔵寺ニュータウン再生市民会議（どんぐりｓ）の2015年度総会が5月24日、東部市民センターで開かれ**＝写真**、藤城理事長が「この一年、実践する組織を目指し、『高齢者すまい相談会』を立ち上げた。春日井市がニュータウン創生課を新設するなどニュータウンは大切な時期を迎えている」と組織基盤の強化を訴えた。

総会では、まず議長に片山繁行副理事長を選出。正会員59人のうち45人が出席（うち委任状が20人）し、総会の成立が報告された。つ

いで、14年度の活動報告を行い、「愛知建築士会からの助成金20万円を活かし、『安心して暮らせるまちづくりを目指して』をテーマに3回シリーズの『どんぐりｓカフェ』などを開催。また、藤山台地区の小学校跡地活用について春日井市に提案書を提出するなど、行政や中部大、他の市民団体との交流・連携を強めてきた」など一年の活動を振り返った。。

15年度の活動方針では、①学習・交流のためのイベントを開催②地域の人々が安心・快適に暮らせるための生活支援活動を行う③地域ネットワークづくりと「市民協働」の実現に向けて活動する④ニュータウンの未来像策定に向けて市に提案する⑤事務局強化や活動資金確保など組織基盤の充実をめざす、として了承された。また、臼田博幸、坂本秀明、浪川昇三、山上薫の４氏が新理事に推挙され、全員承認された。

総会後、懇談会に移り藤山台地区小学校統合に伴う2小学校跡地の活用について意見交換した。会員からは「小学校周辺だけでなく、あるべきニュータウン全体の視点から検討すべきだ」などの意見が出て、今後、市に一層の情報提供を求め、どんぐりｓとして住民の関心を高める努力をすることで一致した。　**（明賀　雄二）**

どんぐりｓから

●総会が無事終了しました。今年度、新たに4人の理事を迎え、更なる飛躍をめざして活動を開始したところです。皆様の尚一層のご支援をお願いいたします。

●やはり、悩みの種は、役員の会合・打ち合わせ、すまいの相談、会員相互の交流など、いつでも使える場所、つまり活動の拠点の確保です。どこかに空き家、空き店舗があればと探しているのですが、なかなか見つからず不自由をしております。何かよい情報がございましたら、事務局宛て（080-4540-3553）ご一報願います。

●拠点確保には、お金が必要です。もう一つの悩みはその活動資金の確保です。そのために、会員を増やす、助成金を獲得する、事業収益をあげるといった方法を模索しているところです。どんぐりｓには、主としてお金の面で支援してくださるサポート会員（一口500円）の制度もあります。一人でも多くの方にご入会いただき、財政面での支援をお願いいたします。　**（藤城　榮一）**

5月のどんぐりsカフェから

「おとなの学校」の人気の秘密

5月16日の「どんぐりｓカフェ」で、「石尾台おとなの学校」の授業風景が森田敏照学校長より紹介された＝**写真**。昨年10月に憩いの家で始まり、毎月第４月曜日に約70人のシニアが集まり、今や入りきれない程の盛況ぶりである。

人気の秘密は、誰もが気楽に楽しく学べ、一緒に健康と仲間づくりができるからのようだ。1時間目、家でできる簡単な体操。2時間目、脳を活性化する音楽。3時間目は趣味や教養を深め豊かに暮らせるセミナー（遺産相続・川柳・太極拳・地元の歴史等）。時には郊外学習としてバス旅行等、中身は盛りだくさんで充実している。

そこには学校運営を支えているスタッフ7名が

おり、いつも楽しめる企画に工夫をこらしている。自主性を重んじ自分ができることをお手伝いしていることが長続きしている秘訣のようだ。また、学校の礎なった「さとの会」の顔である西脇サトさんの「学ぶということはありがたい」という教えが脈々と受け継がれている。設立趣旨の「大人になっても学べる場を提供し、地域社会で自らが活動する住民の育成と応援」の考えや「老後の３Ｋと言われる健康・孤独・経済を乗り切るには、自立する意識が大事であり、照れることなく一歩踏み出す勇気が必要」との学校長の言葉が印象的であった。　（**堀内　泰**）

私の朝・昼・晩

お墓のお話し

いつか誰もが行くところで避けて通れないのがお墓です。「千の風になって」という歌が流行り、お墓なんていらないという人もいらっしゃいますが、私は数年前に思い切って納骨堂タイプのお墓を手に入れました。義理の父のお墓が近畿地方の山の上にあり、急な坂を年老いた義母が登るのが全く困難になったため、どこかに移らなければと考え抜いた挙句、共同のお墓として購入しました。そこは新幹線の駅から専用のバスやタクシーで十数分のところにあります。

ご先祖様にはいささか不謹慎で申し訳ないのですが、子供や孫の代まで見てもらうためには、あまり負担にならない場所、それは故郷でもある観光地が最もふさわしいと考え、いつでも行ってみたくなる魅力あるところと考えたわけです。お彼岸の時などお墓参りをし、そのあと街中を散策して、ちょっとおいしいものでも食べて帰る。これであれば、私たちがいなくなった時でも気楽に参ってもらえるに違いないと勝手に思っています。

この話を友人にしたところ、その人のお墓は湘南にあって、お墓参りをするたびにとてもリラックスした気分にさせてもらえると言っていました。私の考えはあながち間違っていないと思った次第です。　（**長谷川　光男**）

バオバブ街道の夕景（マダガスカル）　森　健

6月のどんぐりsカフェ

●テーマ　カフェから広がる介護者支援
●講　師　太田黒周氏（てとりん副代表理事）
●日　時　２０日（土）13時半～16時
●会　場　東部ほっとステーション
（サンマルシェ南館1階・無料）

6月の高齢者・すまい相談会＆ティーサロン

●14日（日）・28日（日）　ともに13時半～16時、東部ほっとステーションで
●問い合わせ先（☎080-4540-3553）